



牙醫學院周報

時間：107 年月

主旨：許明倫院長受邀日本
Quintessence 專訪

2018年5月10日(木) 第269号 新聞QUINT 17

特別企画

iACDが目指すグローバル展開

アジアから世界へ最先端の歯科医療を発信

2018年5月に前会された国際年会であるiACD (The International Academy of Contemporary Dentistry) 役員および委員には世界的に著名な歯科医師らが名を連ねる。今回は、アジア太平洋地域の優秀な歯科医師にも活躍する場を積極的に提供するため、本学では、本学会の学術的発展を促進する目的で「国際歯科大学歯学部歯学講座(以下「プラットフォーム学術講座」)による前会進行のもと、Founding presidentであるJon B. Suzuki氏(米東・ペンシルバニア大学歯学部歯科学プラットフォーム学術講座)、次期会長であるAllen Mung-Lun Hsu氏(台湾陽明大学歯学部)の2名が日本支部会長に就任する山崎長郎氏(日本歯科大学法政歯学部、東京歯科大学)にお集まりいただき、学会概要および今後の展望についてお話を伺った。



Jon B. Suzuki
iACD 初代会長、ペンシルバニア大学歯学部歯科学プラットフォーム学術講座、アメリカ歯科大学歯学部(PhD)、歯科臨床学術委員

Allen Mung-Lun Hsu
陽明大学歯学部、東京歯科大学

山崎長郎
日本歯科大学法政歯学部、東京歯科大学、iACD 日本支部初代会長

iACD の概要と特長
著名な歯科医師らによる学術集団
城戸(記者)：まず、Founding president である Jon B. Suzuki 先生に iACD 設立の経緯と特長についてご説明いただきたいと思っております。

Suzuki：現在、口腔と全身の健康に関する科学的証拠が数多く示されていることは周知のとおりです。これからの歯科医師は、そのような知識と技術をもって患者さんに歯科医療を提供することが求められます。

そこで、本学会では歯に歯の健康促進を行う歯科医師というだけでなく、口腔から全身を診る歯科医療を通じて患者さんの全身の健康や QOL の向上、健康寿命の延伸などに貢献できる視野の広い人材の育成を目指すことを目的に、世界的に著名な歯科専門医であり、元米歯科歯科学会 (AAP) 会長の Preston D. Miller 先生を中心として設立されました。

今後、Allen Mung-Lun Hsu 先生

が次期会長に就任されますので、さらにアジア太平洋地域を中心として世界的なネットワークを構築し、技術の向上や知識の共有の場を提供していくことが期待されます。

Hsu：Suzuki 先生、ありがとうございます。歯科医学におけるハイレベルの研究や臨床を行う歯科医師の先生方にアピールするだけでなく、卒業後もない先生方を含めたすべての歯科医師に魅力ある場として入学していただくためには、熱心をもっていなければならない多様な学術プログラムはもとより、優秀な教育者や臨床家の指導者が必要となることはいうまでもありません。その点において、本学会の役員や学術・臨床のメンバーは、世界で活躍する大学教授や研究者をはじめ、アジアにおいては、本日で出陣いただきました城戸先生や山崎先生など、各専門領域で著名な教育者や臨床家の先生方が多数いらっしゃいます。これは本学会で非常にアピールできる特長といえるでしょう。

iACD が期待するアジアの可能性
世界で活躍する歯科医師を発信
城戸 Allen Mung-Lun Hsu 先生には、アジアを舞台の発信源とする iACD の意義について、ご意見をいただきたいと思います。

Suzuki：世界経済の動きは非常に速いので、今後 5 年間の将来の動向を見極めなければならないと考えています。近年のアジアの人口増加と都市化の進展はめざましいものがありますし、経済はもとより医療においても、世界的な注目度はアメリカやヨーロッパからアジアに変わりつつあります。そしてなにより、アジアには優秀な歯科医師が多数いるもの、これまでは質の高い診療が少なからずあり、世界で活躍する機会を逃していた先生方もいらっしゃることは事実です。本学会はそのような先生方に活躍する場を提供することで、アジアから世界にはば

たく先生方をサポートしたいと考えています。そこに本学会の存在意義があると思っています。

城戸 Hsu 先生が次期会長として活躍され、アジアから世界で活躍する歯科医師の先生方が 1 人でも多く増えることを期待しています。

このたび iACD の日本支部会長に就任される山崎長郎先生は、アジアから世界でいまま活躍されている歯科医師の代表者の 1 人といっても過言ではないかと思っております。山崎先生は長年にわたって主力されてこられた S.J.C.D. (Society of Japan Clinical Dentistry) のスタンダードグループを日本臨床歯科医学会として学術組織として大きく成長させるなど、iACD も先生の手腕にはとても注目しています。

山崎 iACD が掲げる理念と考え方にたいへん共感できましたので、このたび iACD 日本支部会長の職を承継させていただくことができました。私が理事長を務める日本臨床歯科医学会の基礎の確立と最新医療技術の習得・研鑽、医療の向上、ならびに歯科医療人として人材育成に努力し、国民の健康増進に歯科医療を通じて寄与することを目的として設立されました。

これまで日本の歯科医師は、アメリカやヨーロッパを中心に知識や情報を得てはいたのですが、近年では日本から世界で活躍している歯科医師も多数いますので、iACD 日本支部からも優秀な歯科医師が多数活躍できるように働きかけたいと考えています。

2018 年、学会誌が創刊
魅力ある学術プラットフォーム
城戸 本年から年 4 回オンラインで発行予定の学会誌 (iACD Journal of Interdisciplinary Dentistry) は、英語を母国語としない会員のための電子ジャーナルです。編集委員長は Suzuki 先生であり、私も委員の 1 人

としてかわらせていただきます。その特長として、たとえば日本語で投稿された論文が英語と中国語に翻訳されて発行されるという、他のジャーナルでは見られない言語で掲載されます。会員はすべて無料で閲覧できます。今後はスペイン語にも対応予定です。

最後に、日本支部に期待するメッセージをお聞かせください。

Suzuki：城戸先生にご説明いただきましたジャーナルは、今後アップデートされていく予定です。委員の先生方は積極的に投稿していただき、最新の情報を共有していただきたいと思います。また、今年の iACD シンポジウム (第 1、2) はまた 10 月 31 日から上海で開催されますので、ふるってご参加ください。

また日本支部は、山崎先生のリーダーシップのもと、ゼロから作り上げ、存在になってほしいと思っています。

——本日はありがとうございました。



城戸真実
陽明大学歯学部歯学講座、iACD 日本支部初代会長

山崎長郎
日本歯科大学法政歯学部、東京歯科大学、iACD 日本支部初代会長

図 1 2018 年 11 月の iACD シンポジウム (香港) の様子。

図 2 2018 年 iACD シンポジウムで登壇する城戸真実氏。